

- 本商品には充電電池パック(ラベルに「AL1-003988」と記載されているもの)を添付しています。指定の充電電池パック以外の充電電池パックを使用しないでください。漏液、発熱、破裂、発火、機器本体の故障の原因となります。
- 充電電池パックは、本商品専用です。指定機器以外の用途に使用すると、機器によっては異常な電流が流れ、充電電池パックが破損する可能性があります、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックを火の中に投入したり、加熱したりしないでください。絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構を損傷したりするだけでなく、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックのプラス（＋）とマイナス（－）とを金属で接続しないでください。またネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。充電電池パックがショートし、過大な電流が流れ、発熱、破裂、発火、あるいはネックレス、ヘアピンなどが発熱する原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたり、釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。充電電池パックが変形、充電電池パックに組み込まれている保護機構が壊れ、異常な電流、電圧で充電電池パックが充電される可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックに直接はんだ付けしないでください。熱により絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護回路が損傷し、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックを分解したり、改造したりしないでください。充電電池パックには危険を防止するためのガス排出弁や保護機構が組み込まれています。これらを損なうと、充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。

警告

- 本商品および充電電池パックは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。不用意な取り扱いは危険をとまないます。
- 電子レンジや高压容器に入れないでください。急に加熱されたり、密閉状態が壊れたりして発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池の使用、充電、保管時の臭異、発熱、変色、変形、その他今までと異なることに気がついたときは、本商品より出して、使用しないでください。使用を継続すると充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。
- 充電時、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を停止してください。充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因になる恐れがあります。
- 充電電池パックが漏液したり異臭がするときには、直ちに火気より遠ざけてください。漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因となります。
- 充電電池パックが漏液して液が目に入ったときは、こすらずに水道水などのきれいな水で充分洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。放置すると液により、目に障害を与える原因となります。

注意

- 直射日光の当たる場所、炎天下の車内など、高い温度になる場所に放置しないでください。充電電池パックを漏液させる原因になる恐れがあります。
- 危険防止のため保護機構が組み込まれています。保護機構に損傷を与える可能性のある静電気が発生する場所で使用しないでください。保護機構が壊れ発熱、破裂、発火の原因となる恐れがあります。
- 充電電池パックの充電温度範囲は、0℃～35℃です。この温度範囲以外での充電は充電電池パックを発熱、破損させる原因になる恐れがあります。
- 充電電池パックを使用する前に、本書および『つなぎかたガイド』をお読みください。また、お読みいただいた後は大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 充電電池パックの充電方法については、『つなぎかたガイド』をよくお読みください。
- 充電電池パックをお買い上げ後、初めてご使用する場合に、さびや異臭、発熱、その他異常と思われたときは、使用しないで、お買い上げの販売店にご持参ください。
- 充電電池パックの充電や放電中に、可燃物を上に載せたり、覆ったりしないでください。充電電池パックを発熱、破裂、発火させる恐れがあります。
- 充電電池パックが漏液して液が皮膚や衣服に付着した場合には、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。
- 充電電池パックを保管する場合および廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。他の充電電池パックや金属製のものと混ぜないようしてください。

お知らせ

- ACアダプタを使用している場合でも、充電電池パックは徐々に劣化します。長時間 ACアダプタをつないだ状態にしていると、充電電池パックの劣化を早めてしまいます。本体を使用していないときで、充電電池パックを充電していない場合は、ACアダプタを外してください。
- 長期間（半年以上）お使いにならない場合、電池特性を維持するため半年に一度は電池残量を確認し、40％程度充電することをお勧めします。充電電池パックが電池残量なしの状態 で長期間保管しますと、充電できなくなる場合があります。（保管されている温度により充電できなくなるまでの期間は変わります。）
- ご使用の条件により、寿命が近づくにつれて充電電池パックが膨れる場合がありますが、安全上問題はありません。
- 必要に応じてロングライフ充電機能をご利用ください。充電電池パックの劣化を遅らせることができます。（ロングライフ充電機能の設定方法は、ユーザーズマニュアルを参照してください。）

使用済み充電電池パックの処理

- 充電電池パックの金属端子は、ビニールテープなどで必ず絶縁してください。ショートにより発火・発煙の原因になる恐れがあります。
- 充電電池パックは、絶対に解体しないでください。解体すると金属端子が露出し、ショートの原因となります。

- ご使用済みの充電電池パックは一般家庭ゴミとして棄てないで、「充電電池パックのリサイクルについて」にしたがって処理してください。棄てられた充電電池パックがゴミ収集車などで破壊されてショートし、発火・発煙の原因になる恐れがあります。

充電電池パックのリサイクルについて

本充電電池パックは、リチウムイオン電池です。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。不要になったリチウムイオン電池は廃棄せず、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って、お買い上げいただいた販売店またはリサイクル協力店へお持ちください。

※ 充電式電池のリサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCホームページ http://www.jbrc.com/（2015年5月現在）を参照してください。

 Li-ion00	充電電池パック（AL1-003988） （1UF575555S-B003A） 公称電圧：3.8V 公称容量：2300mAh
--	---

充電電池パックのご利用上の注意

- 充電電池パックの寿命は、お客様のご利用環境により変わります。いざという場合に備えて、早めの交換をお勧めします。
- 新しい充電電池パックは、Shop@Aterm（http://shop.aterm.jp/）でお買い上げください。
- 充電電池パックは消耗品です。満充電時でも、約1時間しか使用できなくなった場合は、充電電池パックの寿命が考えられますので、充電電池パックの交換をお勧めします。
- 本商品を保管される場合は、充電電池パックの性能や寿命を低下させないために、次の点にご注意ください。
 - ・電池残量が十分に ある状態で充電を繰り返すと劣化が早くなりますので、20％程度になってからの充電をお勧めします。
 - ・満充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管はしないでください。
 - ・電池残量なしの状態（本体の電源が入らない程度消費している状態）での保管はしないでください。
 - ・落とさないでください。強い衝撃を与えると、激しく劣化したり、故障の原因となります。
 - ・高温になる場所に置かないでください。長期間保管する場合は、涼しい場所に置いてください。
- 電池保護のため、高温になったら充電を停止することがあります。

ご注意

- （1） 本商品のマニュアルの内容の一部または全部を無断転載・無断複写することは禁止されています。
- （2） 本商品のマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- （3） 本商品のマニュアルの内容については万全を期して作成いたしました が、万が一ご不審な点や誤り・記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- （4） 本商品の故障・誤動作・天災・不具合あるいは停電などの外部要因によって通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粹経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- （5） セキュリティ対策をほどこさず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむをえない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任はいっさい負いかねますのであらかじめご了承ください。
- （6） せっかくの機能も不適切な扱いや不測の事態（例えば落雷や漏電など）により故障してしまっは能力を発揮できません。本商品のマニュアルをよくお読みになり、記載されている注意事項を必ずお守りください。
- （7） Wi-Fi と Bluetooth の同時利用は可能ですが、速度が遅いなどの影響が出る可能性があります。

メンテナンスバージョンアップ機能に関する許諾について

メンテナンスバージョンアップ機能は、本商品のソフトウェアに重要な更新があった場合に、インターネットを介して自動でバージョンアップする機能です。「重要な更新」とは、NECプラットフォームズ株式会社（以下「当社」とします。）が本商品の機能を提供するうえでソフトウェアのバージョンアップが必須と判断した場合（例えばセキュリティ上の不具合を改善するソフトウェアの更新など）を示します。重要な更新がある場合は、当社ホームページの「製品に関する重要なお知らせ」にてご案内します。メンテナンスバージョンアップ機能が開始されると、本商品が再起動するため、それまで接続していた通信が切断されます。また、従量制課金契約の場合、ソフトウェアダウンロードによる通信費用や、パケット通信量超過による速度制限が発生する場合があります。発生した通信費用は、お客様ご負担となります。本機能では、本商品に関する情報のうち、本機能が動作するために必要な最小限度の機器情報・ネットワーク情報が当社が運用するサーバへ通知します。これらの情報は、本機能の実現と本商品や本機能の改善・向上のためだけに利用し、これ以外の目的では利用しません。また、これらの情報は、当社の取り扱い手続きに則り、適切な管理を行います。当社が第三者と連携して本機能を利用する場合につきましても、当社の取り扱い手続き同様に適切な管理を実施します。本機能は、工場出荷時に有効（「使用する」）になっています。本機能に関して許諾いただけない場合は、下記手順で機能を無効（「使用す」）のチェックを外す）にしてください。ただし、本機能を無効にした場合、セキュリティ上の不具合を改善するような重要なソフトウェアの更新であっても、自動的にバージョンアップは行いません。改善前のソフトウェアをそのまま使用し続ける場合、悪意のある第三者から不正なアクセスをされる危険が残る可能性があります。

＜無効にする方法＞
① WWW ブラウザのアドレス欄に「http://aterm.me/」と入力し、クイック設定 Web を起動する
② 「ユーザー名」（上段）には「admin」と半角小文字で入力し、「パスワード」（下段）にはお客様が設定した管理者パスワードを入力する
③ 「詳細設定」－「その他の設定」を選択する
④ 【補助設定】にある【メンテナンスバージョンアップ機能】の【使用する】のチェックを外す
⑤ 【設定】をクリックする

無線 LAN 製品で使用におけるセキュリティに関するご注意

- 無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線 LAN アクセスポイント間で情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
 - 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）等の行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN 製品は、セキュリティに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。セキュリティ対策をほどこさず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむをえない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社はこれによって生じた損害に対する責任は一切負いかねますのであらかじめご了承ください。なお、無線 LAN をより安全にお使いいただくために、暗号化キーは定期的に変更することをお勧めします。

本商品で使用しているソフトウェアについて

本商品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPL または LGPL にしたがひ、複製、頒布および改変することができます。詳細はユーザーズマニュアルを参照してください。

電波に関する注意事項

- 本商品は、技術基準適合証明を受けています。
- IEEE802.11ac、IEEE802.11n（5GHz）および IEEE802.11a 通信利用時は、5GHz 帯の電波を使用しております。5.2GHz、5.3GHz 帯の電波の屋外での使用は電波法により禁じられています。
- 5GHz 帯で使用するチャネルは 36,40,44,48ch（W52）と 52,56,60,64ch（W53）と 100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch（W56）です。従来の IEEE802.11a で使用の 34,38,42,46ch（J52）の装置と IEEE802.11a モードでの通信はできません。

IEEE802.11b/g/n	・ W52（5.2GHz 帯 /36,40,44,48ch）、W53（5.3GHz 帯 /52,56,60,64ch）、W56（5.6GHz 帯 /100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch）が利用できます。
IEEE802.11a/n/ac	
 J52W52W53W56	

5GHz 帯で接続する子機は、以下の表示があるものを推奨します。

- W52（5.2GHz 帯 /36,40,44,48ch）
- W53（5.3GHz 帯 /52,56,60,64ch）
- W56（5.6GHz 帯 /100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch）
- W53(52/56/60/64ch)または W56(100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）を選択した場合は、法令により次のような制限事項があります。
 - ・各チャネルの通信開始前に、1 分間のレーダー波検出を行いますので、その間は通信を行えません。
 - ・通信中にレーダー波を検出した場合は、自動的にチャネルを変更しますので通信が中断されることがあります。
- IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時および Bluetooth を用いた通信利用時、リモート起動設定した休止状態では、2.4GHz 帯域の電波を使用しており、この周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
 - （1） 本商品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
 - （2） 万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用チャネルを変更するか（IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時のみ）、使用場所を変えるか、または機器を電源 OFF（電波の発射を停止）にしてください。
 - （3） その他、電波干渉の事例が発生し、お困りのことが起きた場合には、別紙「お問い合わせ・アフターサービス」記載のお客様相談窓口にご連絡ください。
- すべての Bluetooth 機器との接続を保障するものではありません。
- 本商品は 2.4GHz 全帯域を使用する無線設備であり、IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時は、移動体識別装置の帯域が回避可能ですが、Bluetooth 使用時は移動体識別装置の帯域を回避不可能です。変調方式として DS-SS 方式、OFDM 方式および FH-SS 方式を採用しており、与干渉距離は、DS-SS 方式および OFDM 方式で 40m、FH-SS 方式で 10m です。

2.4DS4/OF4/FH1	
■ ■ ■ ■	2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線設備を示す DS4 : DS-SS 方式で想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す OF4 : OFDM 方式で想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す FH1 : FH-SS 方式で想定される干渉距離が 10m 以下であることを示す ■ ■ ■ ■ : 全帯域を使用し、かつ本商品としては移動体識別装置の帯域を回避不可能であることを示す

- 本商品を 2.4GHz 帯で使用し、チャネル設定を手動で行う場合は、一般社団法人電波産業会の ARIB 規格により下記内容が推奨されています。「この機器を 2.4GHz 帯で運用する場合、干渉低減や周波数利用効率向上のため、チャネル設定として、CH1、CH6、CH11 のいずれかにすることを推奨します。」ただし、無線 LAN 以外のシステムとの干渉を避けるために、推奨の CH1、CH6、CH11 以外を使用しなければならない場合はこの限りではありません。（使用チャネルの設定方法は、ユーザーズマニュアルを参照してください。）

データ通信端末の比吸収率（SAR）について

この機種 MRO4LN は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。このデータ通信端末は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準（※）ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）で定めおり、本データ通信端末に対する SAR の許容値は 2.0W/kg です。このデータ通信端末を本取扱説明書に記述する通常使用の場合の SAR の最大値は 0.458W/kg です。個々の製品によって SAR に多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。データ通信端末は、携帯電話等基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通信している状態では、通常 SAR はより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、データ通信端末の出力は小さくなります。通信中は、身体から 1.5 センチ以上離し、かつその間に金属（部分）が含まれないようにしてください。このことにより、本データ通信端末が国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合していることを確認しています。世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで 20 年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。」と表明しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページを参照してください。http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_japanese.htm SAR について、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページを参照してください。総務省のホームページhttp://www.tele.soumu.go.jp/i/sys/ele/index.htm一般社団法人 電波産業会のホームページhttp://www.arib-emf.org/index02.htmlNECプラットフォームズ（株）のホームページhttp://www.aterm.jp/mobile/info/mr04ln/index.html※ 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第 14 条の 2）で規定されています。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

リチウム系電池輸送規制について

本商品は、リチウムイオン電池を使用しています。本商品とリチウムイオン電池を組み込み、または同梱して輸送する場合は、輸送会社に「リチウムイオン電池を含んだ内容物」であることを伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。法令に基づく表示等を行わないで、空輸、海上輸送を行いますと、航空法、並びに船舶安全法に抵触し、罰せられることがあります。

輸出する際の注意事項

- ・ 本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポートなどは行っておりません。
- ・ 本製品の輸出および再輸出（非居住者への役務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、本製品の入手元にご相談ください。

- Aterm は、日本電気株式会社の登録商標です。
- その他、各会社名、各製品名およびサービス名などは各社の商標または登録商標です。© NEC Platforms, Ltd. 2015

この取扱説明書は、古紙配合の再生紙を使用しています。